



NPO通信

2012年度後期カリキュラム編成と受講生募集

2012年度後期カリキュラムの編成作業は4月末のカリキュラム企画・編成委員会の開催からスタートし、順調に進行しました。「受講生募集案内」は7月5日（木）に納入され、8日（日）の新聞に折り込まれる予定です。**申し込み締切日は8月17日（金）**です。今回の募集案内では曜日別の講座・ワークショップ一覧のほかに興味あるジャンルの内容がひと目でわかる様に「学習分野別の講座・ワークショップ一覧」を加えました。主な分野の特徴を紹介いたします。

1. 後期から音楽講座の構成が次のように変わります

音楽Ⅰ：映像とともに モーツァルトの名曲・名演を観る—音楽編—◇木曜日 10:40～新百合21

音楽Ⅱ：室内楽の楽しみ～“極め付き”室内楽名曲案内 ◇木曜日 13:30～ 新百合21

音楽Ⅲ：東京交響楽団の案内による音楽の楽しみ方 PART13 ◇火曜日 14:20～ ミュザ

日本の伝統芸能：和楽器入門 ◇月曜日 15:00～ 高津市民館大会議室

従来音楽ⅠとⅢで邦楽の講座を交互に実施していましたが、邦楽を「日本の伝統芸能」に変え、会場も高津市民館に固定しました。コーディネーターは洗足学園音楽大学の森重行敏先生（現代邦楽研究所副所長）です。新進気鋭の演奏家による実演も交えて、日本音楽の伝統と未来を考えます。毎回学習内容の楽器を用意して、見て触って日本の楽器のよさを身近に感じられるよう工夫を加えてあります。また、音楽特別講座は名称を音楽Ⅲに改めました。受講生の希望に基づき開催数を9回から11回に戻すとともに、楽器だけでなく、オーケストラに関係するジャンルを広く取り入れる内容としました。

2. 短期集中講座（全3回）は美術と歴史です

美術：＜感覚＞から＜象徴＞へ：印象主義を超えた画家たち～

ゴッガン、ゴッホ、セザンヌを中心に

歴史：大江戸今昔事情について

3. 政治・経済・社会

政治・社会講座：日本社会の現在—3・11が照らし出したもの

政治・社会ワークショップ：トクヴィルでデモクラシーを考える

国際関係講座：中東政治におけるアラブ革命

国際関係ワークショップ：中東の政治変動の根底に流れるものは何か？

経済講座：混迷を深める現代の世界経済情勢を読み解く

経済ワークショップ：TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）を考える

現代事情講座：ユーロ体制は持ちこたえられるか

混迷する現代の問題に焦点を当てた講座・ワークショップが並んでいます。現代事情のテーマは「ユーロ体制は持ちこたえられるか」です。経済講座の「混迷を深める現代の世界経済情勢を読み解く」をあわせて受講していただくと理解がさらに深まります。世界システムの危機の震源地であるユーロ体制と私たちの暮らしへの影響を講師の話聞きながら、ともに考えてゆきましょう。

4. 地域協働

福祉：対話力アップ

企業連携：地域社会に貢献している川崎の会社と人々（その5）

川崎のまちづくりⅠ：震災に強いまちづくり—川崎に大地震が起きたら（その3）

川崎のまちづくりⅡ：最先端技術「光触媒」が未来を作る

子育て支援：発達障害への理解を深める

医療最前線：医療最前線の現場から（その2）

身近な問題を実践的に取り組む講座をそろえました。川崎学とあわせて受講していただくと興味と実践の魅力がさらに増して来るでしょう。

2012 年度後期新規受講説明会の開催

前期に引き続き新規受講説明会を開催いたします。まだ受講されていらっしゃる友人・知人に参加を薦めてくださるようお願いいたします。

開催場所	ミュザ川崎	高津市民館	麻生市民館
月 日	7月18日（水）	7月24日（火）	7月27日（金）
会 場	第1・2研修室	第5会議室	第1会議室
時 間	13:40～15:00	13:40～15:00	13:40～15:00
定 員	60名	50名	50名

学習記録表記載のお願い（2年会員の皆様へ）

新会員制度が始まって2年目の後半を迎えます。30単位取得で修了証の申請が出来ます。修了証の申請は、2年会員の2年目の後期終了時に修了認定申請書を提出し、学長が単位取得の確認と修了の承認を行います。「修了証」の授与は「受講生のつどい」の場で行います。自己申請ですのでお手持ちの学習記録表の確認を行い、記録もれの部分は再記載されて修了認定申請書を提出してくださるようお願い申し上げます。学習のけじめにもなります。「受講生のつどい」の授与式を大いに盛り上げましょう。

理事会報告

（詳細は議事録と資料をご覧ください。事務局に常備してあります。）

「平成24年度6月理事会」 平成24年6月12日（火）15:30～18:15

審議事項：9件、報告事項：14件

主な審議事項 ① 24年度講座・ワークショップ担当役員（案）について

② 24年度NPO役員人事（案）について

③地域活動検討小委員会の立ち上げについて

④ 音楽公開講座の開催について

⑤ 「日本の古典芸能」の受講料について

主な報告事項 ① 24年度通常総会報告について

② 広報業務と分担について

③ 24年度前期運営代表世話人会議の開催について

④ 夏休み子ども理科教室の開催について

⑤ 24年度5月決算報告について

24年度NPO役員人事および講座・ワークショップ担当役員（案）が承認され、新体制でNPOの運営を担当していきます。今回の特徴は大幅な世代交代です。

講座・ワークショップ紹介 第8弾！！

政治・社会 講座・ワークショップ

日時：月曜日 講座 10:30～12:00 WS 13:00～15:00
場所：生涯学習プラザ

◎ 前期の講座・WSの様子から

講座：「現代社会と憲法」

WS：「政治・社会の争点からみた憲法の可能性」

講師：[講座・WS]法政大学教授 杉田敦、一橋大学教授 阪口正二郎、
お茶の水女子大学名誉教授 宮島喬、 [講座]早稲田大学教授 中島徹

今期の講座「現代社会と憲法」、好調です。杉田先生の「憲法は何のためにあるのか」を皮切りに、憲法学者の阪口先生、中島先生のお話から、9条や改憲はもちろん、今まであまり考えたことのなかった憲法の見方や具体的な事例が、毎回とりあげられています。政治・社会の受講は初めての方も多く、「一度、憲法をきちんと勉強してみたかった」「こういう講座って、あんまりないですよ」との声もきかれます。女性の方も多く、質問も活発です。後半は、宮島先生のフランス、アメリカ、EU憲法のお話。社会のなかでの憲法を、さまざまな角度で、楽しみながら学んでいます。

今期は、WSのテーマも憲法です。各回の先生がご用意くださるテキストや論点をもとに、受講生が質問や意見を出し合いながら進めていきます。例えば「隣の国から人道上的支援を求められたらどうするか」「日本の公立高校で、スカーフを着用したいと生徒が申し出たらどうするか」など。白熱することが多い一方、それをじっと聴くことで議論に参加されている方もあります。文字通り右往左往する議論に、ふりまわされてみるのもデモクラシー…。最終回の打ち上げでは、先生方、世話人、受講生の方たちに感謝して乾杯します。来期は皆さまもぜひ！

◎ 後期講座・WSのご案内

講座：「日本社会の現在— 3・11の照らし出したもの」

WS：「トクヴィルでデモクラシーを考える」

講師：[講座]立教大学名誉教授 栗原彬、東京大学教授 島藺進、東京大学教授 吉見俊哉、
福島大学特任研究員 開沼博、[WS]早稲田大学教授 松本礼二

今期、政治・社会講座・WSは、新しいコーディネーターに政治学の杉田敦先生をお迎えしました。3.11の震災・原発事故からみた政治と社会は、昨年の講座から続くテーマであり、4月にはその内容をもとにブックレット『3.11の政治学』が刊行されています。

後期の講座では、3.11から1年半を経た日本社会の現在と、そこに照らし出された問題について、より深く考えていきます。講師は、栗原彬先生、島藺進先生、吉見俊哉先生、そして『「フクシマ」論』の開沼博先生です。政治、宗教・科学、社会学の最前線で活躍される講師陣をお招きし、昨年の出来事から、あらためて戦後日本社会のあり方を見つめます。

また、今年後半はアメリカ大統領選挙の大詰め。後期のWSでは、第7代ジャクソン大統領時代のアメリカを旅してその民主主義の将来を占ったフランスの貴族、トクヴィルをとりあげます。講師の松本礼二先生は、テキスト『アメリカのデモクラシー』（岩波文庫）の訳者です。当時のアメリカを一人のフランス人の眼でながめながら、その政治と社会、デモクラシーのゆくえをたどります。

講座・WSともはじめての方、歓迎です。ご一緒に考えてみませんか？

音楽特別講座 「東京交響楽団の案内による音楽の楽しみ方 PART12」

日時：火曜日 午後2時～

◇ミュージア川崎 市民交流室

本講座は、東京交響楽団の各パートの首席クラスによる、楽器や曲の説明、演奏、Q&A などを通じて、受講者が生の音楽や演奏者の人間性にも直接触れ合える点に特色がある。

例えば、オーボエは葦笛に起源を持つとされる木管楽器で、いざ音を出してもらうと、オーケストラが演奏を始める前に必ず行う「調音」の音であることが分かり、「あー、あの楽器か」と納得する。また、「白鳥の湖」の白鳥のテーマがオーボエであり、その演奏の独特の甘い音色にうっとりとして聞き惚れる。また、楽器と同じ長さのプラスチックホースを利用して、音を出さず実験もあり、出た音が本物に極めて近いことに驚嘆したものである。

会場である「市民交流室」は、空調と音響効果のほど良く効いた 150 人席で、出席者は毎回 100 人から 120 人程度である。講座の運営はアンケート結果を反映しており、それに基づいてプログラムが練られ、また毎回、会の最後に参加者の中から 3 名を選んで、演奏者のサイン入り色紙を贈呈する「お楽しみ」も加えられた。演奏者と受講者の触れ合いはこれだけでは終わらない。クラシック音楽の長寿番組「題名のない音楽会」への東京交響楽団の出演の機会は多く、テレビを通して自分の知っている演奏家たちの最新の演奏を確認できる事も大きな喜びであろう。フルオーケストラのゲネプロ（通し稽古）を鑑賞できる機会も講座に含まれている。

歴史（川崎学） 「もののふ（武士）の時代と川崎」

講師：明治大学講師 渡辺賢二ほか

日時：土曜日 午前10時30分～

◇生涯学習プラザ

江戸城御用物の上納には虫類、草木や花、野菜の種…等々ありますが、そんな中、蛸も上納、それも川崎領の農民からです。「蛸上納」の触書からも 覚 蛸 七百弍拾壺・・・川崎領・・・と書かれています。（蛸を数えるのも大変だったのでは！？）江戸城大奥では川崎領の蛸で「蛸狩り」をしたりして、楽しんだことでしょう。こんな楽しい話もこの講座で聞けるのです。

2012 年度前期、歴史（川崎学）は「もののふ（武士）の時代と川崎」。コーディネーターの長島保先生・渡辺賢二先生をはじめ、12回、8名の先生方の講義を毎回楽しみながら受けています。中世の古道、戦乱期と山城、板碑、多摩川、二ヶ領用水、稲毛米等々の話、また多摩川に沿って村々の名前が現在も町名として使われており、より身近に感じます。もののふの戦いと山城址・・・講座終了後の雑談の中からぜひ見学したい・・・との話がまとまり、先生方と相談、1日バスで中西望介先生の解説のもと、中世の山城を見学することになりました。今回は野外講座がなかったので、楽しみです！！

この講座も7月14日が最終です。後期は10月から「川崎を掘る」。第1回目は考古学とは何か？・・・またまた興味深く楽しみな歴史（川崎学）講座です。

『編集後記』 白波の流れも涼し河水に ひれ振る魚の遊ぶゆたけさ

炎暑の候となりました。涼しさの工夫をしながら夏を乗り切りたいものです。後期の受講生募集が始まります。充実した内容の講座・ワークショップの提供にコーディネーターの先生方とともに努めてゆきます。引き続き受講生の皆様のご支援をお願いします。

編集責任者：折居 晃一、田辺 初子、高橋 富夫、原 宏

【NPO法人かわさき市民アカデミー TEL044-733-5590】